

安全データシート

改訂日 2025年4月3日

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	Triallyl Isocyanurate
会社名	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス3階
電話番号	06-6563-7710
ファックス番号	06-6563-7720
推奨用途及び使用上の制限	不飽和ポリエステル架橋剤, MMAの改質剤, 難燃剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類 JIS Z 7252, 7253:2019使用

物理化学的危険性	該当する区分なし
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分4 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓)
環境に対する有害性	該当する区分なし

GHSラベル要素

絵表示 感嘆符、健康有害性



注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害 臓器の障害のおそれ(中枢神経) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓)

注意書き
安全対策

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱後は手などをよく洗うこと。

応急措置

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

保管
廃棄

施錠して保管すること。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に委託すること。

他の危険有害性

重合することがある。

3. 組成及び成分情報

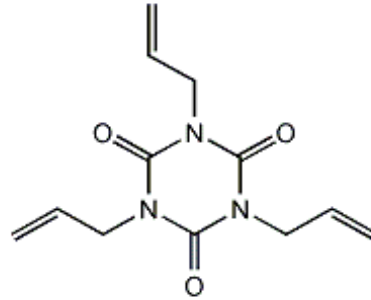
化学物質／混合物の区別

化学物質又は一般名 別名	化学物質 イソシアヌル酸トリアリル 1,3,5-トリス-2'-プロペニルイソシアヌル酸、トリアリルイソシア ヌラート、1,3,5-トリアリル-1,3,5-トリアジン-2,4,6(1 <i>H</i> ,3 <i>H</i> ,5 <i>H</i>)- トリオン、Isocyanuric acid triallyl、Triallylisocyanurate、1,3,5- Triallyl-1,3,5-triazine-2,4,6(1 <i>H</i> ,3 <i>H</i> ,5 <i>H</i>)-trione
-----------------	--

濃度又は濃度範囲

≥98.0%

分子式 C₁₂H₁₅N₃O₃
 化学特性 (示性式又は構造式)



CAS番号 1025-15-6
 官報公示整理番号(化審) 化審法:(5)-1047、安衛法:公表化学物質

4. 応急措置

吸入した場合

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。

眼に入った場合

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
 口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
 データなし。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末、泡、水噴霧、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤

情報なし

火災時の特定危険有害性

当該製品は分子中にNを含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)を放出する。

当該製品は分子中にNを含有しているため燃焼ガスには、一酸化炭素などの他、窒素酸化物系のガスなどの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法及び機材

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
 必要に応じた換気を確保する。
 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。
 粉末の場合は、電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収する。
 粉塵が飛散しないようにして取り除く。
 微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
 漏出物の上をむやみに歩かない。
 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策
	安全取扱い注意事項
保管	安全な保管条件
	避けるべき保管条件 安全な容器包装材料

取扱いは換気の容居場所で行う。
 適切な保護具を着用する。
 粉じんが飛散しないように注意する。
 取扱い後は手や顔を良く洗う。
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱後は手などをよく洗うこと。
 換気の良い場所で保管すること。
 施錠して保管すること。
 窒素シールをして保管する。酸性物質と一緒に保管しない。
 光
 法令の定めるところに従う

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	日本産衛学会(2012年度 ACGIH(2012年版))
設備対策	未設定
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具

未設定
 未設定
 未設定
 蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
 必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用すること。
 必要に応じて、適切な保護手袋を着用すること。
 必要に応じて、適切な眼の保護具を着用すること。
 必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	固体
形状	結晶～塊
色	白色～わずかにうすい黄色
臭い	情報なし
融点／凝固点	24℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	140℃/0.8kPa
可燃性	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし

爆発下限界伊予備上限界／可燃限	下限:情報なし、 上限:情報なし
pH	情報なし
密度及び／又は相対密度(g/ml)	情報なし
相対ガス密度	情報なし
溶解度	水:難溶
n-オクタノール／水分配係数	メタノール、ベンゼン、アセトン、ヘプタンに易溶 1.64
10. 安定性及び反応性	
反応性	情報なし
化学的安定性	熱、光などの影響や過酸化物などの重合開始剤との接触により重合することがある。
危険有害反応可能性	特別な反応性は報告されていない
避けるべき条件	熱、光
混触危険物質	酸化剤、強酸、強塩基、過酸化物
危険有害な分解生成物	二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	ラットのLD50値は雄で707 mg/kg、雌で812 mg/kg(厚労省報告(2003))に基づき区分4とした。GHS分類:区分4
経皮	情報なし
吸入:ガス	GHSの定義における液体である。
吸入:蒸気	情報なし
吸入:粉じん及びミスト	情報なし
皮膚腐食性及び刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	情報なし
呼吸器感受性	情報なし
皮膚感受性	情報なし
生殖細胞変異原性	in vivo試験データが無いので分類できない。なお、in vitro試験として、エームス試験(OECD TG471, GLP)で陰性(厚労省報告(2004))、チャイニーズハムスターCHL細胞を用いた染色体異常試験(OECD TG473, GLP)で陰性(厚労省報告(2004))が報告されている。GHS分類:分類できない
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットを用いた急性経口毒性試験(OECD TG401, GLP)において、1000 mg/kg投与群で、投与翌日以降に自発運動の減少、よろめき歩行、振戦、間代性痙攣、散瞳、尿道口周囲被毛の汚れあるいは体温低下を示し、投与後3-5日の間に死亡例が発生した。2000 mg/kg投与群では、投与翌日以降自発運動の減少、よろめき歩行、振戦あるいは散瞳を呈し、雄で投与後3-5日の間、雌で投与後1-3日の間に全例が死亡した。ガイドダンス値区分2に相当する1000~2000 mg/kgの用量で振戦、間代性痙攣、散瞳などの症状が認められた(厚労省報告(2003))ことに基づき、区分2(中枢神経系)とした。 GHS分類:区分2(中枢神経系)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた28日間反復経口投与試験において、50 mg/kg群で血液化学検査によるASAT、ALAT及びLDHの高値が雄に認められ、病理学検査により、肝臓の重量の有意な高値、暗赤色化、組織学的に肝細胞の小葉中心性肥大が5及び15mg/kg群の雄及び50 mg/kg群の雌雄に観察された。また、肝細胞の単細胞壊死が50 mg/kg群の雄に、小葉中心性空胞化が5及び50 mg/kg群の雄、胆汁栓及び胆管周囲炎が50 mg/kg群の雌雄、胆管細胞の肥大が50 mg/kg群の雄に認められた(厚労省報告(2003))。以上の報告により、ガイダンス値区分1に相当する5 mg/kg/day(90日換算値: 1.6 mg/kg/day)以上の用量で肝臓に対する傷害が認められたことから、区分1(肝臓)とした。 GHS分類: 区分1(肝臓)
誤えん有害性	情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性 魚類 甲殻類 藻類	96h LC50: > 95 mg/L (Oryzias latipes) 48h EC50: > 100 mg/L (Daphnia magna) データなし。
残留性・分解性	3%(by BOD)、3%(by TOC)、1%(by HPLC) * 既存化学物質安全性点検による判定結果: 難分解性
生体蓄積性(BCF)	情報なし * 既存化学物質安全性点検による判定結果: 低濃縮性
土壤中の移動性	
オクタノール/水分配係	1.64
土壤吸着係数(Koc)	情報なし
ヘンリー定数(PaM3/mol)	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	該当なし
国連分類	国連の分類基準に該当せず
輸送の特定の安全対策及び条件	運搬に際しては容器の漏れが無いことを確かめ、転倒、落下の無いように積み込み、荷崩れ防止対策を実施し、法令の定めるところに従う。
緊急時応急措置指針番号	154
15. 適用法令	
該当なし	

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

＜モデルSDSを利用するときの注意事項＞

本安全モデルデータシートは作成年月日時点における情報に基づいて記載されておりますので、事業場においてSDSを作成するに当たっては、新たな危険有害性情報について確認することが必要です。さらに、本安全データシートはモデルですので、実際の製品等の性状に基づき追加修正する必要があります。また、特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた情報に基づく安全対策が必要となります。